



ICT機器も活用した坂本先生の授業の様子



大勢の観客の前で発表する「私の主張コンクール」決勝大会

坂本先生は、受験勉強が本格化する前の小3・小4くらいまでは、多様な読書体験を積んでほしいと語ります。ティーンエイジ向けの小説はもちろん、フィクション、ノンフィクションにこだわらず、色々な作品に触れることが大切だそうです。

坂本先生は、受験勉強が本格化する前の小3・小4くらいまでは、多様な読書体験を積んでほしいと語ります。ティーンエイジ向けの小説はもちろん、フィクション、ノンフィクションにこだわらず、色々な作品に触れることが大切だそうです。

主張の内容は趣味嗜好に関するこ

とや、自分がこれまで取り組んでき

## 学校説明会(要予約)

5月13日(土) 5月20日(土)  
6月10日(土) 6月17日(土)

※日程は変更の可能性があります。  
詳細は事前に学校HPにてご確認ください。

## School Information

所在地: 東京都板橋区東新町2-28-1  
アクセス: 東武東上線「上板橋駅」徒歩10分、地下鉄有楽町線・副都心線「小竹向原駅」徒歩20分  
TEL: 03-3956-3157  
URL: <https://www.johoku.ac.jp/>



毎年、入学試験の国語で小説を題材としている城北中学校。  
説明的文章ではなく文学的文章を出題することに対する思いや、  
対策として有効な勉強法について、国語科の坂本晃洸先生にお話を伺いました。

# 城北中学校・高等学校（男子校）

## 良質な文章との出会いを通じて 自己表現の方法を学ぶ



坂本晃洸先生

### 文学的文章の読解問題で 大切な2つのポイント

「人間形成と大学進学」を教育目標に、生徒の感性や探究心を伸ばす指導で人気を集める城北中学校（以下、城北）。国語の授業では、漢字の読み書きや古典文法の習得といった基礎力を高めたうえで、認識・思考・伝達の力を養う教育活動が展開されています。

入学試験にも特色があり、文学的文章の読解問題（90点）と漢字問題（10点）の2つを大問として出題しています。例年、文学的文章の読解は小説が題材になっており、100点満点中50点以上が記述問題に配点されています。

国語科の坂本晃洸先生は「入試では『書く力』とともに、『表現しよ

うとする力』が身についているかどうかにも着目しています」と話されます。記述問題に苦手意識を持つ生徒も多いかもしれません。本文は「論理に基づいた想像力」を發揮しているかどうかです。

もう1つ、城北が重視しているのは「論理に基づいた想像力」を發揮しているかどうかです。例えば小説のなかに、「泣いている」という表現があったとします。これだけでは、悲しいことがあったのか、嬉しい出来事があつて感動しているのかわかりません。登場人物の心情は、前後の文脈をふまえて初めてわかります。言葉が示す内容を的確に読み、そこからさらに、場面や心情に對して論理的に想像力を働かせられること。それが城北の求められる「論理に基づいた想像力」です。

「説明的文章も文学的文章も、論理的な読み方が大事だ」という点では同じです。『小説だから』と身がまえず、指示語や傍線が引かれた箇所を丁寧に読むことが正解への近道です。傍線部のなかに、登場人物の行動や様子を表す記述がある場合に

城北の入試でも、自分とは異なる「他者の視点」を経験してほしいという思いから、様々な年齢、性別、立場の主人公が描かれた作品が出題されているのだといいます。

加えてオススメするのが、親子や友だち同士で、読んだ本の感想や考え方を自由に話すことです。自分で気づかなかつた読み方や意見に耳を傾けることもまた、他者視点のはどのように養つていけばいいのでしょうか。

では、こうした問題にも柔軟に対応できるよう、しなやかな国語力はどういうふうに養つていけばいいのでしょうか。

坂本先生は、受験勉強が本格化する前の小3・小4くらいまでは、多様な読書体験を積んでほしいと語ります。ティーンエイジ向けの小説はもちろん、フィクション、ノンフィクションにこだわらず、色々な作品に触れることが大切だそうです。

「入学後は他者の視点から世界に向かい、世の中の問題を考える力を身につけていくつと考えています。文学や国語の勉強を通じて、『こういう悩みを抱える人が同じ日本社会にいるんだ』『自分に見えていなかつただけで、こんな問題が世界にはあるんだ』と気づいてくれた

ら嬉しいです」（坂本先生）

続いて坂本先生に、普段の国語の授業で大切にしていることを伺うと「添削をどれだけ丁寧に、生徒それぞれに寄り添つて行えるかを意識しています」と答えてくださいました。

城北では、教科書やオリジナルテキストの内容をまとめた100字要約をはじめとして、教員から添削指導を受ける機会が豊富に用意されています。返却された添削をもとに、解答に抜けていた要素やまとめ方のボイントを確認していくことで、文章を書く際に必要となる読解力と記述力を着実に養っていくのです。

こうした学習の成果披露の場として、中1・中2で伝統的に行われて

いるのが「私の主張コンクール」で

す。自分が主張したいテーマについ

て600～800字の作文を自由に

書き、それをもとに弁論大会が開催されます。クラス予選を経て選出された代表者はその後、中1・中2の全生徒の前で発表を行う決勝大会に臨みます。

主張の内容は趣味嗜好に関するこ

とや、自分がこれまで取り組んでき

て、中1・中2で伝統的に行われて

いるのが「私の主張コンクール」で

す。自分が主張したいテーマについ

て600～800字の作文を自由に